

# 自治体から見た医工連携の必要性



“地元力”発信 19年連続開催「メディカルクリエーション福島」

一般財団法人  
ふくしま医療機器産業推進機構  
事業企画推進部長 石橋 毅

# ふくしま医療機器産業クラスター推進構想

～国費と県費をバランスよく獲得し、戦略的に拠点づくりを展開～

国内随一の  
医療機器開発  
製造拠点を  
目指して！

## 産学官連携による革新的医療機器開発を推進

国レベル

都市エリア産学官連携促進事業  
「発展型」(文科省)

地域イノベーションクラスター  
「グローバル型」(文科省)

地域中核産学官連携拠点  
(文科省/経産省)

医工連携イノベーション推進事業  
地域連携拠点自立化推進事業  
(AMED 2021～)

地元日大工と  
県立医大との  
医工連携

広域的新事業ネットワーク拠点重点強化事業(経済産業省)

## 地元町工場や中小企業 医療機器分野への新規参入を促進

県レベル

ふくしま次世代医療産業集積プロジェクト  
県単独予算でスタート(2005～)

部材供給促進

OEM生産促進

自社製品上市

2005.4

改正薬事法施行  
製造販売業と製造業へ

2008.9

リーマンショック

2011.3.11  
東日本大震災

2013.5

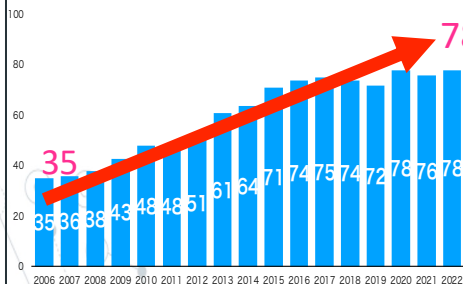
ふくしま医療機器  
産業推進機構設立

2016.11

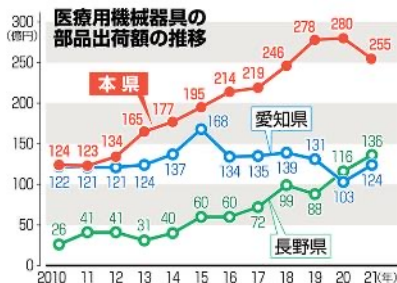
ふくしま医療機器  
開発支援センター開所

法改正、中小企業に  
新たなチャンス  
到来！

### 医療機器製造業者数が2倍増へ



### 医療用機械器具の部品等生産金額 “12年連続日本一”



2023.10.6  
福島民報社より  
抜粋

地方自治体

大きな隔たり

医工連携

【支援体制、主な問題点】

- ・ 頻繁な人事異動、リーダーや担当者ともに固定できない
- ・ 専門職が確保できない
- ・ ノウハウが蓄積できない
- ・ 予算を継続して確保しにくい
- ・ ネットワークが弱い

製品開発支援  
ハードルが高い

大病院

大学

部材供給  
OEM生産のための  
マッチング支援

市民病院、  
クリニック

保健センター

地域包括ケアセンター

地域医療（包括ケアシステム）

産業振興といえば  
地元中小企業中心

医療機器メーカー/工場



# これまで医工連携支援に関わって感じたこと（私案）

- 「部材供給・OEM生産」を促進させる支援体制、仕組みについて  
地元で立地する医療機器工場や薬事工業協会との密な連携、情報交換、人の交流は必須であり、ここにマッチングのチャンスがある。かつての元請け・下請けという階層的・垂直的關係は、より水平的な新結合（ODM生産）への変化していきたくと予想する。
- 専門人材の確保と支援体制の継続強化について  
医療機器開発、製造全般をカバーするオールラウンダーは探そうと思っても見つからない。外部組織の協力を得つつ、内部職員をいかに育てていくかが成功へのカギ。働く環境として、魅力的なプラットフォームに仕上がっていないと、医工連携（企業支援）は続いていかないだろう。
- 地元力を発揮した地方メッセを開催する意味について  
「メディカルクリエーションふくしま」は単なる展示会ではない、知識創造と知識ストックを促進させる機能を持っており、地元企業と支援機関職員を成長させ、やがて医療機器クラスターは地域の枠を超えて成長していきたく。

※（一財）機械振興協会経済研究所北嶋守氏の考察「地域産業のイノベーションシステム（学芸出版社）」を参考とした。

# 全国各地の医工連携・支援機関一覧について

(★ 地域連携自立化推進拠点)

## 【北海道・東北地区】

- ノーステック財団 ○21あおもり産業総合支援センター
- ★いわて産業振興センター ○宮城県、仙台市フィンランド健康福祉センター ○あきた企業活性化センター
- 山形県産業技術振興機構 ★ふくしま医療機器産業推進機構

## 【中部地区】

- 富山県新世紀産業機構 ○石川県産業創出支援機構
- 岐阜県産業経済振興センター ○名古屋商工会議所
- 三重県産業支援センター

## 【中国地区】

- 鳥取県産業振興機構
- しまね産業振興財団
- ★倉敷中央振興機構
- 岡山県産業振興財団
- ひろしま産業振興機構
- 山口県産業技術センター

## 【九州地区】

- ★九州ヘルスケア産業推進協議会、福岡県
- 佐賀県地域産業支援センター
- くまもと産業支援財団 ○大分県
- 宮崎県 ○鹿児島県
- 沖縄県産業振興公社

## 【関東地区】

- つくば研究支援センター ○栃木県産業振興センター
- 群馬県産業支援機構 ○埼玉県産業振興公社、さいたま市産業創造財団 ○千葉県産業振興センター
- 東京都医工連携ハブ機構、東京都中小企業振興公社、大田区産業振興協会 ○神奈川県立産業技術総合研究所
- 横浜企業経営支援財団、川崎市産業支援財団、相模原市産業振興財団 ○にいがた産業創造機構、新潟市産業振興財団 ★やまなし産業支援機構
- 長野県テクノ財団 ○静岡県産業振興協会、ふじのくに医療城下町推進機構

## 【近畿地区】

- ふくい産業支援センター ○滋賀県産業支援プラザ ○京都産業21、京都高度技術研究所、京都リサーチパーク
- ★大阪商工会議所、堺市産業振興センター、関西広域連合、八尾市、東大阪市産業創造勤労者支援機構
- 神戸医療産業都市推進機構、姫路商工会議所
- 奈良県地域産業振興センター ○わかやま産業振興財団

## 【四国地区】

- とくしま産業振興機構 ○かかわ産業支援財団
- えひめ東予産業創造センター ○高知県産業振興センター



# 自治体における医工連携支援のあり方

## ○ “製品開発支援”、あるいは“部材供給・OEM生産支援”を選択

各自治体は域内に所在する企業や大学、研究機関の特色を活かし、次世代医療機器開発拠点や臨床研究中核病院などとの連携による開発促進や、域内に立地する医療機器工場を中心に部材供給・OEM生産の促進させる取組み、あるいは新しい視点で、自治体主導による市民の健康寿命延伸や未病対策PJなどへ取組むことも有効かもしれない。

## ○ 持続可能な支援ネットワークの構築

医療機器関連市場への参入を目指す中小企業数は落ち着きを見せる一方、アカデミア発ベンチャーやスタートアップが増加。医工連携支援機関は、地域連携自立化推進拠点を中核に層化しお互いに越境する活動を認め、“点から面”で支援を分担しつつ成果を上げていく必要があるのではないか。

# 最後に

全国、自治体発 医工連携・産業支援機関を対象に、  
継続性のある研究会・協議会活動があっても良いのでは  
ないでしょうか。

医機連、日医工、  
薬事工業協会など

日本医学会(142学会)  
日本機械学会など

産  
学 官

?

ご清聴ありがとうございました。

